

## I 洗礼、バプテスマを受ける人の条件＝三位一体の神への信仰

1. 三位一体の神による天地創造を知り、信じる。※進化論は仮説にすぎない。進化論が本当なら、動物園の猿は、そろそろ人間になっているはず。しかし、人は人、猿は猿として神は、大切に創造された。科学を始めた有名な、ニュートンやパスカルは、進化論ではなく、偉大な神による創造を信じる敬虔なクリスチャンだった。キリスト教は、科学の母。

### 2. 先行する三位一体の神の恵みと自分の罪を知り、主イエスを救い主として信じる。

- ① 父なる神の愛と選び。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」ヨハネ3：16。「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」イザヤ43：4。
- ② 子なる神、キリスト。キリストは永遠の始めから神であるのに、私達を愛し、私たちの為に、人間になり、クリスマスに生まれ、何一つ罪を犯されなかったのに、私達の罪（神への背き、不品行、ねたみ、憎しみ、恨み、不正）の刑罰を受ける為に十字架で死なれた。そして、死に勝利し、三日目に復活された。主は、ご自身を信じる者に、罪の赦しと永遠の命を与えて下さる。今も私達と共にいて下さる。
- ③ 聖霊なる神は、主の十字架の死から50日目（ペンテコステ）に、天から世に遣わされ、主の弟子達が、主イエスの救いを伝える時、人々の心に、罪を自覚させ、その数えきれない罪の為にキリストが十字架で死なれ、私達の罪を完全に償われた恵みを心に教えて下さる。そして、主への信仰と信仰告白を与えて下さる。「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言うことはできません。」Ⅰコリント12：3。

## II 水のバプテスマ、洗礼の前に、主を信じる私達に与えられる素晴らしい恵み＝聖霊のバプテスマ（目に見えない教会に加わる恵み）。

水のバプテスマ（原語：水に浸す、体を洗う）洗礼式は、その霊的な恵みを、公に現わす聖なる儀式。洗礼は、目に見える教会に加わる儀式。教会の一員となり、神の家族となる。洗礼式は、神の喜び、本人の喜び、家族の喜び、神の家族の教会全体の喜びである。それぞれが、初めの愛に立ち返らせられる。

### 1. 霊的な恵み

「私たちはみな、ユダヤ人もギリシャ人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によってバプテスマを受けて、一つのからだ（キリストのからだ＝共同の教会、普遍的な教会）となりました。そして、みな一つの御霊を飲んだ（うるおされた）のです」Ⅰコリント12：13。私達は、主を信じた時、聖霊なる神が、私達が、キリストのからだ（共同の教会、普遍的な教会＝先に天国に召された信者と今、地上で主を信じている世界中の信者の集まりである教会＝キリストのからだ）となるように聖霊が私達に霊的なバプテスマを授けて下さった。御聖霊は、御霊のバプテスマにより、キリストに霊的に結び合される。「キリスト・イエスにつく（御霊の）バプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたものではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によ

って死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです」ローマ6：3-4。この霊的な先行する恵みを本日の洗礼式で公に表す。

2. 「あなたがたは行って（全世界に出て行って、職場、学校、家庭の人々と関係作りをし、福音を伝えながら。原語：ながら）、あらゆる国の人々を弟子（主から恵みを受け、主から学び、主の為に働く者）としなさい（原語：主動詞）。

父、子、聖霊の名（原語：単数）において（原語：の中へ＝三位一体の神との交わりに入っていく。「あなたがたは…キリストとの交わりに入れられたのです」Ⅰコリント1：9。「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように」Ⅱコリント13：13）「彼らにバプテスマを授け（原語：ながら、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい（原語：ながら）。」マタイ28：19、20。洗礼を受け、ますます神との交わりが深まる。主の御からだである主の教会での交わりも深まる。神の家族として。

Ⅲ 主が、マタイ28：19で、バプテスマを授けながら、あらゆる国の人々を「クリスチャンにしなさい」ではなく、「弟子としなさい」と言われた大切な意味を受け留めたい。洗礼はゴールではなく、弟子化のスタートである。弟子とは、主の恵みを受け、感謝し、主と主のみことば、実践から学び続け、自分の分に応じて主の為に喜んで働く、主の証し人である。

※恵みの証し。神の愛と恵みと御聖霊に満たされての証し。家族、知人、友人への証し。自分の力ではない神の業！

1. 主は、主を信じるすべての人に、主と主のみことばに教えられ養われながら、「主の弟子となきなさい」と言われている。もちろん、完成された弟子ではなく、クリスチャンは、主に立てられた牧師の説教や御言葉の分かち合い、自分で読み味わう御言葉、家庭礼拝、サマーキャンプ等の恵みに養われ、主の弟子へと成長し続けるのである。成長は、頭の知識だけではなく、実践しつつ成長する。教会全体の責任者は牧師である。しかし、教会のすべての奉仕を牧師ができるわけではない。教会員一人一人が、主の弟子として、主の恵みに感謝しつつ、奉仕をされ、教会を建て上げておられる恵みを心から感謝したい。牧師が本分の「祈りとみことば」の奉仕に専念する時、教会の皆さんに祈り支えられた説教は、教会員の心に届き（心臓から命である血が体中に届き生かすように）、牧師も教会員も成長させられる。セルグループによる相互牧会、牧会の分担がなされている事も感謝したい。

2. 若者の救いのための働き人を祈り求める時、大切な事がある。「働き人」にだけ、その働きを任せる体質を持たない事である。※証し。「働き人」が与えられていない今も、出来る事がある。主が今も、若い人々を礼拝に送られる時、一人一人が、主の恵みを数え感謝する弟子として、心から歓迎する心を持つ事である。歓迎し自己紹介するだけでも、大きな働き。主の弟子の集まりである当教会が、「今出来る事はないですか」と祈り求めたい。伝道は、伝道部だけの働きではない。教会の一人一人が、主の恵みを数え感謝に満たされる時、一人一人は、主の弟子、良き証し人となる。その備えができた時、主は「働き人」を与えて下さる。「働き人」だけに任せず、協力し証しする教会を主は祝福される！主の時に、働き人を与えて下さい。私達も、主の恵みに感謝する弟子、働き人にして下さい！